

## 北大ミュージアムクラブ Mouseion による展示解説

文学部 2 年・Mouseion

伊藤優衣

### 【はじめに】

2017 年 3 月 4 日（土）～5 日（日）の 2 日間にわたって、北海道大学総合博物館にて、北大ミュージアムクラブ Mouseion（ムーセイオン）の学生たちによる博物館常設展の展示解説が行われました。両日とも、総合博物館では卒論ポスター発表会が開催され、それと同時開催という形で今回実現しました。

Mouseion では総合博物館の展示から、各個人が興味をもった展示を選び解説を作成し、専門教員による原稿チェックや練習を経て、市民の方々に解説しています。今回の展示解説では、1 年生 3 人が解説者デビューを果たし、両日とも午前と午後で 3 人がローテーションを組んで解説をしました。

このレポートでは、スラブ・ユーラシア研究センターの展示解説を中心に述べていきます。今回の展示解説において、スラブ・ユーラシア研究センターの岩下明裕先生には、原稿チェックをお引き受けいただきました。たいへん感謝申し上げます。

### 【展示解説当日の様子】

今回、農学部 1 年の黒岩さんが、博物館 2 階スラブ・ユーラシア研究センター展示ブースの解説を担当しました。緊張しているとのことでしたが、それを感じさせないくらいはきはきと解説をしていたように見えました。大人数に対して解説したのではありませんが、来館者ひとりひとりに目を

向け、コミュニケーションをとっていました。それは、来館者の興味津々な様子から



も見て取れたように思います。

来館者の層は実に様々でした。子ども連れの方、ご年配の方、道外から来られた方などです。内容としては、ボーダーツーリズムに関する来館者の理解が深まるように、またスラブ・ユーラシア研究センターを知っていただくことを目標に、展示物・チラシ・タブレットを駆使しながらの解説でした。真ん中をついたてで隔てたブースを奥まで巡りながら行うという工夫がみられ、解説中のところどころで「へえ！」という声も聞こえてきました。実際にこの解説を聞いた来館者の方にインタビューを試みたところ、国境のイメージが変わったという方がいらっしゃいました。これに関して、しっかり来館者の方に伝えることがで



き正直によかったと思います。しかし、より分かりやすく伝えるためには、まだまだ改善の余地があります。来館者の方々からの励ましや率直な感想をもとに、これからの展示解説活動をさらにより良いものへと向上させていきたいと思っています。

ほかにも今回は、理学部ブースの電波望遠鏡に関する解説や、新聞広告の展示に関する解説が行われました。黒岩さんと同様に、練習や準備を経ての解説デビューでありました。3人とも初めこそ緊張しているようではありましたが、来館者の方々とのコミュニケーションを大切にしながら解説に取り組んでいる姿がありました。引き続き、頑張っていきたいと思っています。